

津島町家 3 × 6 【佳作】



設計者

笠原啓史・砂田加奈子

◎設計主旨

津島市本町通り周辺は、間口が5間を超える大型町家と、間口3間程度の比較的小規模な町家とに分かれる。大型の商家として建てられたものと、長屋や小住宅として建てられるなど、建築の経緯が違っていると推測されるが、本提案では汎用性の高いと思われる間口3間の建物に注目した。間口3間の町家をベースに持続的な建築・活用システムをつくることで、津島町家が長期にわたって住み続けられ、魅力ある町並みを形成していくよう、本提案をすることとした。

■津島町家 3×6

間口3間×奥行6間、通り庭のある1列3室型の伝統的な町家の間取り・構造をベースにして、現代的な住宅や店舗などの様々なバリエーションに対応できる町家を提案する。デザインは、平入の切妻造り瓦屋根を基本とし津島の伝統的な街並み景観に配慮する。格子や木製建具などのストック部材も積極的に採用する。あえて新しい形の町家を提案せず、伝統的な町家のフレームを継承しつつ、そこに新しい暮らしや活用法を挿入することを考えた。そのことで新築町家のみならず、既存町家の再生にも活かされると考えた。

■町家のストック・活用バンク

やむを得ず解体された町家の部材をストックし、移築再生や新築町家の部材の一部として再使用する。空き家情報と、活用希望者の情報を集約し、町家の良さを活かす活用者とのマッチングを行う。運営方法は、いろんな可能性があるが、行政とNPOなどの協働も一案である。例えば行政が場所を提供し運営するNPOを支援する等、考えられる。

◎講評

○難波和彦審査委員長

本町筋に沿って散在する、間口3間×奥行6間、通り庭のある1列3室型の伝統的な町家の間取り・構造を標準的なプロトタイプとしてとらえ、核家族にふさわしい新しい暮らしや活用法を挿入できる汎用性のある町家として提案したものです。町家の標準的な間取りを抽出しようとするアプローチが、結果的に、やや紋切り型の町家住戸に収斂してしまった点が惜しまれます。

○朝岡市郎審査委員

本町筋の既存建物の部材をストックし、本町筋の敷地に合わせた寸法の町家をストックした部材を再活用し、持続的におもむきを残す提案です。今回の提案の中では、少し異なる視点から町家の再生を可能にした提案だと思います。

○浅野聡審査委員

この提案は、3間×6間の小規模町家を対象として、再生に向けた基本的な考えをまとめたものです。全体的に基本的な内容に留まっており、独創的な視点からの魅力的な提案としては不十分であったのが残念でした。

例えば建築部材のストック・活用バンクはとても重要な提案であり、京都や金沢等でもストックの活用が進んで成果を上げていることから、表面的な提案とせずにもう少し掘り下げた提案に出来るとよかったのではないかと思います。

○生田京子審査委員

伝統的な町家のフレームを継承しつつ、新しい暮らしを可能にする住宅プロトタイプ提案である。実直な設計であるが、やや従来の町家の構成から抜け出せておらず、発展性に乏しい点が評価に影響したように思う。

○清水裕之審査委員

これは、町屋を建築ストックとしてハードとソフトの面からの保全の仕組みを提案したものとして評価された。軸組の基本的なモジュールを理解した保全、補修・修景の必要性に応じたファサードのランキング、建築部材や空き家・空地のストックと活用バンクの制度提案など、幅広い仕組みを構想していることには好感が持てる。しかし、プレゼンテーションが地味であり、何を最も主張したいのかがはっきりしなかったことが少し評価を下げた。

○日比一昭審査委員

この提案は、津島町家の3間×6間のモデルプランとストック・活用バンクである。オーソドックスな提案であり、提案について参考になると考えている。